

第10回「持続可能な開発のためのエネルギー」国際フォーラム及びESCAPエネルギー委員会第2回会合

ERINA 調査研究部主任研究員
エンクバヤル・シャクダル

2019年10月7～8日に、バンコク市(タイ)の国連会議センターにて、「目標を行動へ」との会議テーマの下、第10回「持続可能な開発のためのエネルギー」国際フォーラム(IFESD)が開催された。同フォーラムは、国連の5つの地域委員会とタイ王国エネルギー省が主催した。第10回IFESDに続き、2019年10月9～11日に同じ会場で、国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)エネルギー委員会第2回会合が開催された。いずれの会

議も、会議参加者は招待者のみであり、第10回IFESDには約400名が参加し、ESCAPエネルギー委員会第2回会合にはESCAP構成国政府、国連機関、国際機関その他の関係機関の代表者ら142名が参加した。これらの会議へのERINAからの参加は初めてであった。

アルミダ・S・アリスジャバナ国連事務次長・ESCAP事務局長が同フォーラムの開会あいさつで述べた通り、持続可能な開発のための2030アジェンダと気候変動に

関するパリ協定は、様々な分野での根本的な変革を求めているが、近年、より多くの人々に低廉でクリーンなエネルギーを供給するための努力が非常に大きな進歩を遂げているにも拘わらず、低炭素で、再生可能エネルギーに依拠した、高効率の持続可能なエネルギーが全ての人々に一様にいきわたるようになるための道筋は、依然として見通せない。したがって、同フォーラムの主な目的は、目標と行動との間の溝を縮めるための道筋を探ることであった。エネル

ギーに関わる様々な課題として、例えば、クリーンな調理、電力へのアクセス、再生可能エネルギー、エネルギー効率、化石燃料のよりクリーンな利用といったことが、一連の円卓会議や同時並行開催されたセッション、サイドイベントなどの場で議論された。また、同フォーラムの中で、エネルギーと気候変動、貧困、格差、保健、ジェンダー問題などとの相互関係についても議論された。

筆者は「SDG7とパリ協定達成における天然ガスの役割」と題したワークショップの第1セッション「電力、産業、民生分野における天然ガス」で、「北東アジアにおけるエネルギー供給の脱炭素化：石炭から天然ガスへの転換政策の経済的影響」という発表を行った。これは、ガス発電への税金を廃止し、また、石炭への補助金を支給している国々で石炭発電への補助金を廃止するという政策を世界で実施した場合の効果を、一般的なCGEモデル(GTAP 6.2)及びGTAP電力データベース(ver. 9.0A)を用いて分析したものである。この分析によって、こうした政策を取った場合、世界全体で経済厚生が9.42億ドル(2011年米ドル表示)増加することが示された。この経済厚生の増加は、生産要素配分の効率化と投資・貯蓄の交易条件の改善によるものである。この際、世界の石炭供給価格は0.62%上昇し、ガス価格は3.13%下落する。北東アジア諸国には勝者と敗者が混在することになるが、地域全体としては4820万ドルの経済厚生の増加となる。

エネルギー委員会会合の第2回会合には、ハイレベルの代表団が参加し、持続可能な開発のためのエネルギーというテーマに関するそれぞれのビジョンや戦略を発表した。エネルギー委員会は、ESCAPの第71回総会において設立されたもので、SDG7実現に貢献することを目的として、事務局に対する指導やありうべき地域協力分野の提案などを行う機関である。第1回会合は2017年1月17～19日に開催され、2年おきに開催されることになっている。また、同委員会は「各国専門家によるエネルギー計画策定のためのSDG7ツール(NEXSTEP)」の見直しを行いつつ、内容の一層の充実や、より多くの構成国での活用に向けた助言を行っている。

さらに、エネルギー委員会は電力系統

接続の行程表原案を検討し、承認した。これは、持続可能な開発のために越境電力接続性を高めようとするもので、2020年5月に開催される第76回 ESCAP 総会に提出される。この行程表原案は、2017年5月の第73回 ESCAP 総会で設置が決まったエネルギー接続性専門家作業グループが策定したもので、そこでの意見統一を踏まえた今回のエネルギー委員会第2回会合に提出された。また、ESCAP 主導により、4つの局地雷(東南アジア、南・南西アジア、中央アジア及び東・北東アジア)ごとに、エネルギー接続性の現状報告書が取りまとめられた。これらの報告書では、それぞれの地域内及びより広いアジア太平洋での電力網の統合に向けて、各地域が政策面、制度面、機構面でどのような段階を

踏むべきかが示されている。

エネルギー委員会第2回会合では、各構成国から行程表原案に対して様々な意見が出された。行程表原案の中には、本行程表の最終的な目標は、より信頼性が高く、低廉でかつ持続可能な電力供給を可能とする汎アジア連係電力網を構築し、ひいてはこの地域の低炭素エネルギー体制への転換を支えることが目的であると示されている。

参考までに追記すると、今回の会議に関連する行事として、2019年10月24日にソウル市(韓国)で「北東アジア地域電力相互連結・協力フォーラム2019」が開催され、北東アジアにおける地域的な電力相互連結に関する活動について議論された。

[英語原稿をERINAにて翻訳]

第10回「持続可能な開発のためのエネルギー」国際フォーラム(IFESD)全体会議



アルミダ・S・アリスジャバナ国連事務次長・ESCAP 事務局長の開会あいさつ (ESCAP エネルギー委員会第2回会合)

